

サステナ チェーン

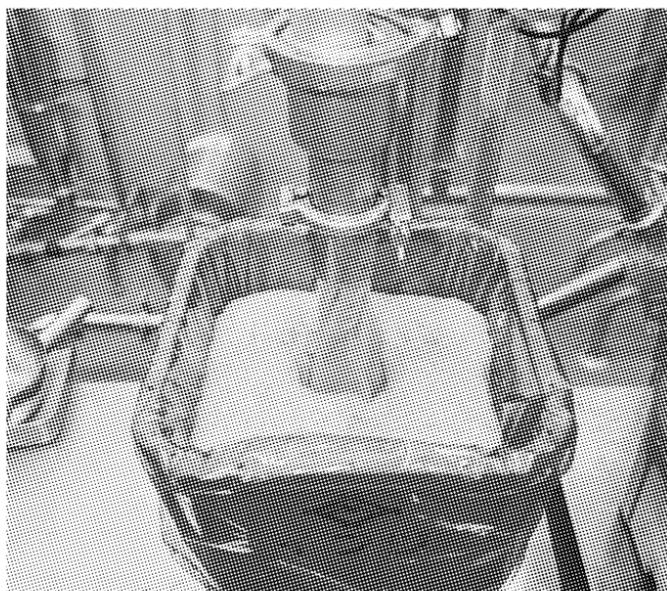
イフジ産業は鶏卵を割り食品材料として使いやすくした「液卵」の大手メーカーだ。食産業を支える企業として供給基盤を固めるほか、調達を通じてサプライチェーン（供給網）の上流となる生産者の強靱化に貢献する。

◇ イフジ産業は2031年3月期までに、液卵販売量を25年3月期比22・5%増の8万トに増やす。液卵はパンや菓子などに欠かせず、需要が拡大している。取引額や顧客の増加を図る上で生産量拡大に備えるため、国内4工場の製造機械やインフラを刷新する。生産機能拡大のため30億円を投じて増強を図る。

工場は関東・関西・中部

イフジ産業

規格外品の卵も液卵にすることで、価値のある製品となる



・九州の4拠点。災害などで、鶏卵市場での卵の価値で機能が停止した場合は、被災していない工場から納入する。鶏卵相場に基づき価格入するなど事業継続計画（BCP）も考慮する。

原料となる鶏卵は国内に約1200者ある養鶏場のうち500者ほどから調達する。藤井宗徳社長は鶏卵の生産量について「感覚としては毎日約2〜3%の振れ幅がある」と説明する。そのため生産者側の余剰を買い取り、液卵にすること

九州の4拠点。災害などで、鶏卵市場での卵の価値で機能が停止した場合は、被災していない工場から納入する。鶏卵相場に基づき価格入するなど事業継続計画（BCP）も考慮する。

原料となる鶏卵は国内に約1200者ある養鶏場のうち500者ほどから調達する。藤井宗徳社長は鶏卵の生産量について「感覚としては毎日約2〜3%の振れ幅がある」と説明する。そのため生産者側の余剰を買い取り、液卵にすること

規格外の卵も調達 持続可能な養鶏支援

一鶏卵市場では価格の高止まりが続いています。

「24年までの鳥インフルエンザ拡大や猛暑による生産量減少によるものだ。影響が収まれば価格にも反映されてくるだろう。一方、養鶏場で使うエサ代や輸送コストも上がっており、それらも価格高騰の要因ではないか。コメの価格高騰にも言えることだが、生産コストなどを踏まえると今までの値段が安すぎたのではないかという思いもある」

一工場への設備投資を実施します。新工場建設の可能性は。

「現状はない。既存工場の拡充で十分まかなえると認識している。しかし人員の確保は必要だ。当社は5月に平均13.6%の賃上げを実施した。優秀な人材確保に加えて、社員のモチベーション向上につなげる」

一液卵事業以外の取り組みは。

「卵由来のプロテイン事業に着手している。ホエイプロテイン（牛乳由来のたんぱく質）が苦手な人から一定の需要がある。卵の殻を使った新規事業の検討も進める」

人員確保、「殻」使い新事業



社長

藤井 宗徳氏

うことで養鶏の持続可能性を高める。エサは輸入穀物がほとんどで生産コストが高まる中、養鶏場の利益が

大にも寄与する。このほか液卵の副産品である卵の殻はチヨークやロジンバックの材料にアップサイクルして販売することで、環境配慮と価値向上にもつなげている。

（九州中央・片山亮輔）

【会社概要】▷所在地=福岡県粕屋町戸原東2の1の29▷代表者=藤井宗徳氏▷液卵事業や調味料事業など